

令和3年度 第2回 二宮町環境審議会会議録

日 時：令和4年3月29日（火） 午後2時00分～4時00分
場 所：二宮町役場3階 議会第1委員会室
出席者：室田会長/渡辺委員/井上委員/土谷委員/和田委員/坂本委員
事務局：安藤生活環境課長/山下環境政策班長/北川主任主事
委託事業者2名

1. 開会

事務局：本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

定刻となりましたので、これより令和3年度第2回二宮町環境審議会を始めさせていただきます。

本日の審議会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的として、リモートと対面のハイブリッド方式による開催とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、本日は次期環境基本計画策定の業務委託をしております事業者にも同席いただいておりますので、よろしくお願いいたします。

2. あいさつ

会 長：今回は初めてリモートを交えた会議になりますが、様々なご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

3. 議題

（1）令和2年度進捗状況に対する委員意見に関わる今後の町対応について

『資料1：令和2年度進捗状況に対する委員意見に関わる今後の町対応について』

『資料2：第2次環境基本計画（後期実施計画）事業評価シート』

について事務局より説明

【審議結果】

- ・「3-1(2)-① 地球温暖化防止運動の推進」の評価指標（令和3・4年度分）については変更せず、従来の評価指標を用いて進捗評価を行う。なお、第3次二宮町環境基本計画策定の際に、改めて評価方法の見直しを行う。

【質問・意見等】

- 委 員：マイエコ10宣言の回収を学校で行うこととした場合、作業的な負担よりも、心理的な負担の方が掛かりませんか。例えば、事務局提案の評価指標（案）①はマイエコ10宣言の回収率となっておりますが、そうした場合、回収に徹しなければならぬといった心理的な負担や、次の学年に上がった時に、前よりもっと良くしなければならぬといった心理が働いてプレッシャーにならないか心配です。
- 委 員：環境教育は学校内でも特別活動として位置づけられていますので、大事に取り組んでいかなければならないのですが、他の業務もある中で、どこまで環境教育を扱うか、また、アンケートを実施する時期にもよると思います。また、児童がアンケ

ートに答えただけに留めないで、アンケート結果をどのように児童へフィードバックするのか、さらには、そのフィードバックを元にどのように授業展開するかが重要だと考えます。現実には、そこまでうまくできていないところもありますので、担任の意識として、回収に徹するだけに留まってしまうと、より良いものにはならないと思いますので、狙いや効果を考え、具体的にどのような授業にするのか学校現場として考えることが必要だと思います。ただやはり、何もしないままというよりは、毎年継続してアンケートを実施するだけでも子どもたちの意識は確実に変わってくると思いますので、あとは工夫次第だと思います。

委員：事務局が提案する指標に変えていくことは、問題ないということでしょうか。

委員：問題ありません。

会長：評価指標（案）②の8学年とは何でしょうか。

事務局：小・中学校を対象として、意識変化を把握できる学年になります。小学2年生になれば、小学1年生からの意識変化が把握できるようになりますので、小学2年生から中学3年生までの8学年を対象としています。

委員：ふるさとまつりが平常どおり開催できるようになったら、評価指標は戻しますか。

事務局：評価指標を戻すか、それとも、提案させていただきました評価指標に置き換える方法もありますので、本日はその点についてもご議論いただければと思います。

ちなみに、マイエコ10宣言は神奈川県発信の事業を二宮町版として実施していますが、県では、コロナ禍において回収率を下げないような工夫はされていますか。

委員：工夫した動きはなく、むしろ後退気味です。このマイエコ10宣言の最終的な目標はCO₂（二酸化炭素）排出量の削減になりますので、アンケートの回収率を指標とするよりは、実際にどれくらい電気代を削減できたかなど、別の指標に置き換えるのも悪くないと思います。例えば、学校で節電に取り組んでいけば、最終的に学校の電気代は下がるはずですので、その削減量を指標とすれば、実態を把握できるので良いと思います。

委員：回収率ではなく、例えば「お家の電気を再生可能エネルギーに変える」といった指標にして、実際に何か変化したことが分かるものを評価軸にしても良いと思います。どうしても、評価指標が宣言のみになると、実態まで追えないと思います。

また、世界ではチェンジ・エージェントという若者がステークホルダーの方々に働きかけて社会が変わっていくという事例がありますので、小・中学校の子どもたちが親に働きかけることで、親の考えが変化して、再生可能エネルギーの使用に切り替えるなどの行動に繋がっていけば良いと思いました。

委員：学校でも節電はしていますが、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、冬場の寒い時期でも窓を開けて換気をする必要があります、その中でも、エアコンは付けたままにしても良いことになっていますので、今まで行っていた節電がなかなか実践できないのが現状です。しかし、実感がないと本当の学びには繋がらないと思っていますので、身の回りにあるもので何ができるのかを考えさせる工夫が必要だと思っています。例えば、学校や教師から与えられたことではなくて、生徒が主体的に取り組めるように、生徒会や児童会を活用するのも一つの方法と考えています。

事務局：より実態の分かる指標にできれば良いと思っておりますが、評価指標を変えるご提案は、後期実施計画（第2次環境基本計画）期間内の令和3・4年度分のみを考えています。

より細かい数字を指標に入れていくのかについては、第3次環境基本計画を策定する際に検討できればと考えています。

委員：ふるさとまつりの中止により、進捗評価ができなくなってしまうのは、令和3年度のみになるということでしょうか。そのようでしたら、今の評価指標のままで、中止になった場合は「-」（評価不可）のままでも良いと思います。

事務局：進捗評価を行うのは、令和3・4年度の2か年度分になります。

委員：マイエコ10宣言の項目に「あなたのお家は再生可能エネルギーを使っていますか？調べてみましょう」といった項目を入れてみてはどうでしょうか。この項目を一つ入れるだけでも実態が浮かび上がってくると思いますし、継続的に実施していくことで、実態の変化を把握できるのではないのでしょうか。

事務局：マイエコ10宣言については、より先生の負担をおさえ回収率を上げるために、令和2年度から令和3年度にかけて内容をわかりやすく変えてきました。「再生可能エネルギー」という言葉を小学1・2年生に伝えるためには、理解を得るだけの説明に大きな枠を必要とするほか、小学生は学年ごとにレベルも大きく異なりますので、難しいと考えています。ふるさとまつりで実施する場合には、再生可能エネルギーの説明も可能ですが、単純に学校へ配布して、先生に回収していただく方法は、かえって負担になるのではないかとといった心配があります。

会長：マイエコ10宣言を家に持ち帰って、家族の中で話し合ってもらえば良いのではないのでしょうか。

事務局：以前、学校の先生にお願いをした際に、家に持ち帰ると学校に持って来ないといった話をいただいたことがあります。

委員：実際、その通りだと思います。家に持ち帰って家族と話し合いができれば、さらに環境教育の幅が広がると思いますが、持ち帰ると回収が大変になるのが実情としてあります。回収率を上げるためには、学校で時間を確保して、その場で書いて回収する方法が一番良いと思います。

委員：県が実施する「マイエコ10宣言」も、その場で書いて回収するから集まるのであって、家に持ち帰るとなると回収率は下がると思います。

委員：評価できない指標が増えるのは良くないので、町で代替案を考えて、評価できる指標に変えていく姿勢は良いことだと思います。学校への負担についても、先ほど委員より工夫が必要という話がありましたが、無理のない範囲で、試行的にできる範囲で実践すれば良いのではないのでしょうか。

会長：この先、新型コロナウイルスの感染状況がどうなるか分かりませんが、緊急避難的に評価が「-」になっても良いと思います。今、新たな評価方法を取り入れるより、次期環境基本計画策定時に抜本的な指標の立て方について議論してもらい、先ほどから意見が出ているような実行を伴う結果を判定できる指標を取り入れられれば良いと思います。今回代替案を採用することについて、いかがでしょうか。

委員：ふるさとまつりで回収できるのは100～150枚程度で、この数であれば、学校でなくても組長の会議等で回収できると思いますが、残り2年間の評価方法で悩むより、次期環境基本計画策定の際に新たな指標に立て直した方が良いかもしれ

ません。ただ、少なくとも5月に環境フォーラム（エコフェスタにのみや）が開催されるので、ふるさとまつりと置き換えて回収しても良いと思います。

事務局：環境フォーラムでは、回収拠点となるブースがないので、難しいと思います。

委員：環境フォーラムの中に講座等を開催する場所があると思いますが、その場に来場する方に配布して、帰る際に提出してもらおう形にすれば、100部くらい集まるのではないのでしょうか。

事務局：ふるさとまつりは農産物等を販売していますので、一般の町民も来場しますが、環境フォーラムは、環境に興味のある町民が多く来場するので、点数の高い評価になってしまうと考えています。一方で、回収先を小・中学校にしておけば、特定の人にはならないので良いと思います。ちなみに、環境フォーラムでの出店内容は既に決まっていますので、新たにブースを設けるのは難しく、時間と人員から考えても回収は難しいと思います。

委員：今回、環境フォーラムの中で私と同じ地球温暖化防止活動員が開く講座だけでも実施してみてもはどうでしょうか。

事務局：講座を開く会場が狭いので、来場人数も限られれば、回収数も少なくなってしまうので、実施するには不十分と思います。このイベントには、ホールでのイベントもありますが、その場で説明するのは難しく、チラシのように配布して、帰りに回収するのは可能かもしれませんが、先ほど申し上げたように、時間や人員から考えると回収は難しいと思います。

委員：それでは、評価指標はふるさとまつりでの回収にしておいて、中止になったら「-」の評価にすることで仕方ないと思います。来期以降、そもそも指標として、マイエコ10宣言が良いのかも含めて審議できればと思います。

会長：評価指標（案）②のように、学校における前年度からの意識変化を指標にする方法は良いと思いました。

事務局：学校へのフィードバックとして、現在、各クラスに平均点や学年順位を記載したポスターを貼り出してもらっていますが、併せて、来年度からは前年度との比較もフィードバックしていきたいと思っています。

会長：それでは、評価指標は例年通りでよろしいでしょうか。

事務局：異議はないようですので、現行の評価指標は変えずに、次期環境基本計画策定時に見直したいと思います。

（2）次期環境基本計画策定について

- ・町民アンケート、中学生アンケートの結果について
- ・計画策定に伴う方向性等について

『資料3：第3次二宮町環境基本計画ストーリー（検討案）』

について事務局より説明

【審議結果】

- ・第3次二宮町環境基本計画に位置付ける基本施策は「自然環境」「生活環境」「地球環境」「活動の輪」の4つとする。
- ・「地球環境」の基本目標である「目指せ脱炭素！地球のことをみんなが思いやる「にのみや」の実現」については、暫定案として「目指せ脱炭素！地球のことをみんなでき、行

動する「にのみや」の実現」とする。

- ・「活動の輪」の基本目標である「あらゆる世代による環境づくりの輪が広がり、つながる「にのみや」の実現」については、暫定案として「あらゆる世代による環境づくりの輪が広がる「にのみや」の実現」とする。
- ・基本的には、提案の環境像と基本目標の方向で進むこととし、今後、事業計画を練って行く中で、改めて環境像や基本目標についても再審議する。

【質問・意見】

- 委員：基本目標の一つに地球環境「目指せ脱炭素！地球のことをみんなが思いやる「にのみや」の実現」とありますが、パリ協定などの国際的な取り組みの中で目標を達成するためには時間がないと思いますので、「思いやる」という表現ではなく、もう少し踏み込んで「みんなが行動する「にのみや」の実現」とした方が、これから目指すべき状態に近くなると感じました。
- 事務局：基本目標以下「取組の目標」には、例ではありますが、「行動しよう」といった表現も入れています。
- 委員：「思いやる」という言葉から一歩踏み込んで行動するところにスタートラインをおくことで、何から行動するかといったところから始めることができると思います。文言は結構大事だと思います。
- 委員：望ましい環境像にある言葉自体きれいすぎて、主体者が誰かわかりません。もっと泥臭く危機感のある表現が良いと思います。きれいな表現が二宮町に当てはまるのか、理想とする環境ばかりが頭にあって、実際の泥臭い部分が良く分からないです。
- 委員：吾妻山や里山は遠くから見ると緑があるように見えますが、実際によく見ると、ナラ枯れによって山は荒れ、また、竹やぶも荒れていて誰も入れないという状況もありますので、この何十年間で失われた里山や里海を取り戻すという文言があると、今はマイナスですが、ここから町民と行政がいろんな人を巻き込んで取り組んでいくという感じが伝わって良いと思います。今の表現ですと、このままきれいな町を目指すという表現に感じます。実際、海と山、川のつながりはいろんなもので分断され、流れが止まっていると思いますが、防災の部分など、いろんな部分で環境の改善を図っていく、つまりは、環境を再生させていくような動きが大事になると思っていますので、そのような理念が入ってくると良いと思います。
- 会長：現状は分かりましたが、主題は「望ましい環境像」となっていますので、実情を盛り込むというよりは、目指すところがどこなのかを望ましい環境像では表現したいのだと思います。
- 事務局：会長がおっしゃる通り、現状というより理想像であり、こうありたいという姿を示しています。今がこうだからこのままで良い、ということではなく、この姿を目指していくために行動しようという言葉として捉えていただければと思います。一方で、危機感をどこかでアピールしなければいけないと思っていますので、環境の理想像で示すというより、実際に、町広報紙やホームページの中で危機感を伝えていくのが、現実的に皆さんに伝わると思います。今、皆さまにご審議いただきたいのは、主に理想像と基本目標の項目立てになりますので、中身については、今後時間をかけて作っていきたいと考えています。

委員：本日出席いただいているコンサルタント会社の方から見て、二宮町の特性をどう捉えていますか。

コンサル：中学生へのアンケートや、町の現状などから客観的な提案をしており、それを町の方で内容のもみこみを行っています。先ほど事務局の説明にあったことを認識していましたので、このような望ましい環境像になると考えています。特に私からそれ以外のことはなく、ただ、中学生はこの環境が好きであるということは良くわかりました。利便性を高めてほしい、都会に憧れがあるといった意見があると思っていましたが、そんなことはなく、持続可能な良い環境を作っていくポテンシャルを持っているという感想を持ちました。

委員：同様の受託業務を他市町村でもされていると思いますが、他市町村と比較して、二宮町の推しはどのようなところですか。

コンサル：緑や水辺を守るということは、この町以外でも当てはまることですが、何か環境に関わる活動をしたいといった思いを持つ方が多い印象を受けたので、活動の輪が広がっていくことに特徴を感じています。

委員：特徴に活動の輪が出るようでしたら、望ましい環境像の文言は「環境づくりの輪」を前段文章に出してはどうでしょうか。

コンサル：そのアイデアは良いと思います。

委員：環境づくりの輪を先に持ってきて、その中で自然環境を守るといった表現がこの町の環境像に合うようでしたら、この文言を前に持ってきた方が良いと思います。

委員：先ほど話がありましたように「望ましい環境像」ということで、現状を入れるかどうかは検討の余地があると思いました。ですが、自然が失われている現状は入れた方が良いと思いますので、最終的な判断は事務局にお任せします。

また、地球環境の基本目標については、やはり「思いやる」ではなくて「行動」が入った方が良いと改めて思っています。

委員：私は事務局の説明を聞いて、良くまとまっているなと思いました。現場の教員として何ができるかということですが、私が考えているのは「成育」であり、地球規模で考えながらも、今、自分たちにできることを考えなければならないと思っています。

先ほど、事務局からの説明にありましたワールドカフェにつきましては、大賛成です。自分たちの書いたものから学びを広げていき、また自分はどうかということからさらに学びを広げる、そういう形で自分にできることは何かと考え積み上げることを大事にしたいと思っています。比較的、二宮町の小・中学生は郷土愛が強いのではと感じていますので、是非とも工夫してやりたい、クラスの中だけでも、ということもできると思っています。今後、新型コロナウイルスの感染状況がどうなるのか分かりませんが、実施してみて、町にフィードバックするなどの連携ができるのではと考えています。

委員：良い例が思い浮かびませんが、主体が町民であるというような望ましい環境像の中に「みんなで作り上げる」といった言葉が入れないかと思います。目標について子どもが見ても分かるような言葉で表現してみたり、未来ある子どもたちのためにというのであれば、もう少し町民が見て思い描きやすいような環境像にで

- きたら良いと思います。
- 会 長：論点としては、望ましい環境像にもう少し現実的な文言、例えば「再生」といった今の環境より良いものを求めるような表現を取り入れるかどうか、活動の輪を主体にしたいのであれば、望ましい環境像の中で大きく出すというところだと思いますが、その辺はどうでしょうか。
- 委 員：他市町にも関わっている関係で、「活動の輪」や中学生が吾妻山や海に愛着があるというところが二宮町の特徴だと分かりましたので、ご提案にもありましたが、望ましい環境像の文言で「環境づくりの輪」を先に出すというのも一つの手だと思いますし、それ以外に、区分が「自然環境」、「生活環境」、「地球環境」の並びですと、ごくごく一般的な印象を受けるので、順番を逆にして「活動の輪」を4つある区分のトップに出すのも良いと思っています。
- 委 員：望ましい環境像について、みんなもあなたも私もこの一員であるということが、一目で分かるような言葉があると良いと思います。
- 委 員：小・中一貫の目標についても、生徒や教員、保護者に覚えてほしいということで、短く簡潔にまとめました。私は望ましい環境像について、スローガンの形で良いと思いましたが、これを短く簡潔にした方が良いということでしょうか。
- 委 員：子どもにも分かるようにしたいです。中学生が短い言葉で町のスローガンを作っていたと思いますが、それに近いようなものが良いと思います。
- 望ましい環境像の理想はきれいであることかもしれませんが、10年後の未来を見据えて、もう少し自分に引き寄せた形で環境に関わっていこうと思わせる文言が良いと思います。
- 事 務 局：もう少し皆さんにわかりやすく、くだけた表現でも良いと個人的には思いますが、やはり町の計画ですので、このような表現になってしまいます。
- 委 員：くだけた表現でなくても良いですが、自分事と伝わるような文言があれば良いと思います。
- 会 長：「皆で美しい環境をつくるまち にのみや」とかそういう表現でしょうか。
- 委 員：まだその表現の方が良いかもしれません。現時点の案だときれいすぎて整った状況を望ましいと感じるような文言になっているので、もっと泥臭い努力の過程が見えるようにしたいです。
- 委 員：よく見てみたのですが、私はこれで良いと思いましたが、一言一言を見ていくと、二宮町の特徴の一つは「山」だと思いますので、二宮町の自然を表す上で「山」という文言が入った方が良いとは思いましたが、それ以外で「共生」という言葉があって、そこに泥臭い自然を守る営みが入ってくるのではないかと感じました。確かに一見するときれいすぎると思いましたが、見ていくうちにこれで良いと思いました。望ましい環境像はこのままで、他の部分で自然の危機的状況を補足していく感じで良いのではないのでしょうか。
- 委 員：望ましい環境像の前段・後段の文章を入れ替えずにということでしょうか。
- 委 員：そうです。自然が主役で、人が脇役だと個人的に思いますが、どちらでも良いと思いましたが、ただ、「山」という文言は入っていた方が良いと思います。山林を整備しないと、この前の吾妻山の土砂崩れもありましたが、今後そのような事案が増えてくると思いますので、そのあたりの特徴は入れると良いと思います。
- 委 員：スローガンのものなので、先程から長くても良いと思っていましたが、あえて

短くするのであれば「取り戻そう 美しいまち にのみや」「つくりあげよう 美しいまち にのみや」「手をとって つくりあげよう にのみや」が挙げられます。

また、前段部分をカットして「多様な自然といつまでも共生し、環境づくりの輪が広がる美しいまち にのみや」も一つの案だと思います。後は文言なので捉え方だと思います。

私は「自然環境」「生活環境」「地球環境」「生活の輪」という体系が良くまとまっていると思いました。まずは、この区分で決めて、その後計画を作りながら変えていっても良いと思っています。確かに「山」という言葉があれば良いと思いましたが、入れることで長くなるのであれば、前段部分の「緑と水辺、そして海が織りなす」をカットするのも良いと思います。あくまで1つの案になります。

委員：海を出すのであれば、緑と水辺ではなく、山と川ではないでしょうか。

委員：二宮町という吾妻山は浮かんでくるので、そのキーワードを入れるのも良いと思いましたが、一方で、入れるのも難しいと感じました。

委員：ストレートに山と川にしてはどうでしょうか。

事務局：これはあくまでスローガンであり、その下の文章に補足として吾妻山や葛川についても記載してあります。先ほど、委員の意見にありました危機的状況についても、文章中に書き添えていくことはできます。

委員：例えば、望ましい環境像の前段と後段を入れ替えると、「環境づくりの輪を広げ織りなす多様な自然といつまでも共生する美しいまち にのみや」といったところでしょうか。もしくは、輪が「広がる」というより、「広げる」とする案もあります。

会長：先ほど委員より話がありましたが、私の考えでは、人間は自然に生かされているので、自然環境を優先した表現で良いと思っています。

事務局：「広がる」とした理由は、「広げる」という表現だとこちらから広げていくような印象になりますが、「広がる」とすることで自然発生的に広がっていく印象になります。行政が仕掛けて広げることもあれば、私たち行政の知らないところでいろんな輪が広がっていて、町の自然のために行動したい町民がおり、これからも自然発生的に広がっていくということで、期待を込めた表現として「広がる」を採用させていただきました。

先ほど意見にありました緑と水辺、海という表現については、山、川、海とした方がストレートかもしれませんが、町民なら緑といえば吾妻山や一色周辺など、水辺といえば葛川、海といえば相模湾が頭に浮かぶと思います。あえて山や川など使わなくても良いと思い、緑や水辺といった表現としました。

委員：望ましい環境像はスローガンの的なものであって、詳細は別にあるという認識で良いのではないのでしょうか。

委員：「日本列島回復論」という著書を書いた井上岳一さんという方が二宮町に住んでおり、山と水の恵みで郷が潤うといった文化を「山水郷」という言葉を使っていますが、この言葉を望ましい環境像に取り入れるのは難しいですか。活動をしていく中で、改めてこの望ましい環境像に立ち返るということだと思いますが、難しいということであれば、先ほど委員が言っていたように、今後作業を進めていく中で何かあったらまた変えれば良いと思いますので、概ねこの文言で良いと思います。

- 委員：「望ましい環境像」という言葉は、基本計画に載るのでしょうか。
- 事務局：今は検討段階ですので、細かい構成までは考えておりませんが、現行計画と同様にするのであれば、基本理念のところでは記述していくことを考えています。
- 委員：望ましい環境像を重視してしまうと意味合いが掴みづらかったのですが、「町民の多くは、豊かな自然に包まれた美しい生活環境の「二宮町」が未来へと続くことを求めており、それらを目指すことは「二宮町」が持続可能な町となることを意味します」という文章から、環境像の捉え方が読み取れました。環境像は将来つくりたい町のスローガンに感じました。
- 会長：このまま変更しないことになりそうですが、どうでしょうか。
- 委員：望ましい環境像の前段文章があってもなくても良いと思います。
- 会長：「織りなす」という表現を入れるとなると、前段文章は必要になると思います。
- 会長：「基本理念」より「望ましい環境像」とした方が良い気がしますが、そこは決まりなのででしょうか。
- 委員：「望ましい環境像」の方が身近な感じがして良いと思います。
- 事務局：この表現については、改めて考えていきたいと思っています。
- コンサル：これは「望ましい環境像」になります。「基本理念」とすると、また違う表現にするべきだと思いますので、現行計画に捉われずに考えた方が良いと思います。
- 既に基本理念は条例の中にあり、計画として目指すべきところはどこなのかというのが今のお題になります。
- 会長：「望ましい環境像」ということで、文言修正なしで採用するというところでよろしいですか。次に基本目標の文言について審議したいと思いますが、先ほど、委員からは地球環境の基本目標について意見があったので、そこから審議したいと思います。
- 委員：「目指せ脱炭素！地球のことをみんなで考え、行動する「にのみや」の実現」が良いと思っていますが、どうでしょうか。
- 会長：地球環境の基本目標について、異論はありますか。異議ないようでしたら、次に自然環境の基本目標「多様で誇れる自然がいつまでもそばにある「にのみや」の実現」について意見はありますか。
- 委員：「誇れる」というのは自分たちにとということでしょうか。
- 委員：自分たちにとってだと思います。
- 会長：自然環境は修正なしで良いのでしょうか。次に、生活環境の基本目標「まちがきらきらと美しい「にのみや」の実現」について意見はありますか。
- 委員：ほかの基本目標と比べて短いので、もう少し長くしたいです。
- 会長：生活環境は住みやすさでなくて、きれいを求めるものですか。
- 委員：「きらきらと美しいまち「にのみや」の実現」ではないのでしょうか。もしくは、もう少し具体的にしても良いと思います。取組の項目にある公害防止を「健康的」、歴史の保護、景観保全を「豊か」と捉えて、「健康的で豊かに暮らせる「にのみや」の実現」はどうでしょうか。
- 会長：「美しい」という文言が強調されていて、具体的にごみが落ちていないという風に捉えることができますが、取組の項目を見ると生活環境が豊かであることが主題になると思います。端的に言うと、「豊かなまち にのみや」「住みやすいまち

にのみや」ですが、どこにでもありそうな感じがします。

委員：ほかの基本目標は具体的ですが、生活環境の基本目標は抽象的な気がします。

委員：「まちがきらきらと美しい」という状態であって、作り上げるとか、自らの手でという意味が弱いと感じました。

事務局：今年度の目標としては、望ましい環境像・4つの対象区分・基本目標の3つを決められれば良いと考えていますが、この場を出してすぐに承認が得られると思っ
ていませんので、望ましい環境像と対象区分を4つとする方向性には異論なしで
よろしいでしょうか。また、基本目標については、このような表記で大枠を定めて
おいて、今後事業を進めていく過程で合わなくなるところもあるかと思いますの
で、今後、事業づくりと同時並行で検討を進めたいと思います。

ただ、委員の意見にありました地球環境の基本目標については、この段階で変更
させていただきまして、今後の状況に応じて、場合によっては変えていくとい
うことで進められればと思います。

会長：生活環境の目標は、中学生のアンケート結果をもとに作られたものでしょうか。

事務局：そうです。アンケートでごみ関係が多く出ていること、一番身近な問題であるこ
とから、環境に入っていく切り口になると考えました。生活環境の中には快適環境
のことも多少は入ってくると思しますので、そのことについては、今後議論してい
く中で決めたいと思います。

基本の方向性は現行計画では3つでしたが、これを4つとし、基本目標の文言
についても子どもたちに分かるような易しい言葉を採用しました。

委員：望ましい環境像の中で「美しい」の意味を幅広くとっていましたが、生活環境の
基本目標で使用してしまうと「美しい」は「きれい」、「清潔」という限定的な意味
に捉えられますので、違う言葉に置き換えた方が良くと思います。

事務局：もっと易しくして「きれいな」とするということでしょうか。

委員：もしそのような意味であるならの場合です。自然環境の基本目標で「美しい」を
「きれい」、「清潔」という意味に限定してしまうと、「望ましい環境像」の「美し
い」もそれらの意味に限定されてしまうのではないのでしょうか。

事務局：そのことも含め、今後検討できればと思います。

会長：次に「活動の輪」の基本目標について意見はありますか。

私は「輪が広がり、つながる「にのみや」の実現」について、「広がり」があれば自然と「つな
がっていく」と思うので、「つながる」はいらないと思います。「輪
が広がる「にのみや」の実現」はいかがでしょうか。

委員：異議ありません。

委員：具体的な文言については、今後考えていくということでもよろしいでしょうか。

事務局：今後事業を考えていく中で変更が生じることも想定していますので、概ねこのよ
うな形でまとめていくものと捉えていただければと思います。

会長：基本目標については、現時点では暫定案として、今後詳細を詰めていく中で検討
していくということでもよろしく願いいたします。対象区分が4つに分かれてい
ることについては、異議ありませんでしょうか。

委員：異議ありません。

(3) 今後のスケジュールについて
について事務局より説明

【審議結果】

- ・異議なし。

4. 閉会

事務局：本日は長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。
これをもちまして、本日の環境審議会を閉会とさせていただきます。
ありがとうございました。